

日本産業の新生「タイムアクシス・デザインの時代」 —世界一やさしい国のモノ・コトづくりを目指して

平成 23 年 9 月 24 日(土)、慶應義塾大学工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会 (DTM) の 2011 年度活動:「デザイン塾:“日本産業の新生「タイムアクシス・デザインの時代」—世界一やさしい国のモノ・コトづくりを目指して”」が開催されました。本活動は、DTMおよび慶應グローバルCOEの主催、日本機械学会 Design理論・方法論研究会および日本設計工学会 設計理論・方法論に関する研究調査分科会との共催により行われました。

第1部では、タイムアクシス・デザイン概念と意義、その理論・方法論をテーマとして、本部会主査の松岡、本部会副査の小林昭世先生(武蔵野美術大学)、佐藤浩一郎先生(慶應義塾大学)、古郡了様(マツダ株式会社)、國本桂史先生(名古屋市立大学)、氏家良樹先生(慶應義塾大学)より、それぞれの専門領域に基づき、6件の講演が行われました。

第2部では、タイムアクシス・デザインの理論・方法論を応用したデザイン作品の発表が行われ、「タイムアクシス・デザイン理論を応用したバイオインスパイアード・ピークル」、「創発デザインに基づく情報システム」、「イスタンブール日本庭園におけるストリートファニチャーのデザイン」など、プロダクト系、情報系、環境系のさまざまな分野におけるタイムアクシス・デザインの応用事例が紹介されました。

本活動には、デザインに関わる研究・教育者の方々(静岡文化芸術大学、千葉工業大学、筑波大学、豊田工業大学、名古屋市立大学、日本大学、武蔵野美術大学、慶應義塾大学、Monterrey Institute of Technology and Higher Education)、実務者の方々(アーカイブ、工芸財団、ソーシャルファイナンス支援センター、東芝、日本サムスン、日立、マツダ、三菱、ものづくりAPS推進機構、A.T.カーニー、GKテック、DIAMアセットマネジメント)、学生を含む約50名の方にお越しいただき、さまざまな時間軸のデザインや、それらのデザインが持つ日本産業における意義や可能性について議論が行われました。お忙しい中ご参加いただきました皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



会場の様子



小林昭世先生による講演の様子



佐藤浩一郎先生による講演の様子



古郡了様による講演の様子



國本桂史先生による講演の様子



氏家良樹先生による講演の様子